

プレス・コピーサービスを初めてオーダーする方のため

失敗しないためのDVDやCDのプレス・コピーの基礎知識

目 次

はじめに

| | |
|---------------------------------|----|
| 1 章.プレスとコピーの違いって？ | 1 |
| 2 章.マスターデータの作成について気をつけることは？ | 2 |
| 3 章.DVD オーサリングとは？ | 4 |
| 4 章.印刷デザインと提出に関する注意点とは？ | 7 |
| 5 章.マスターデータ、デザインデータ入稿のポイント(まとめ) | 10 |
| 6 章.その他注意点と予備知識 | 11 |
| 7 章.オーダーのながれ | 13 |

はじめに

この小冊子は、以前に弊社メルマガ「ビデオ編集ニュースレター」にて連載した記事を元に加筆・修正し、新たにまとめたものです。

そのため、文章表現などが多少メルマガ向きになっており、ご不便な感じになっている部分もございますが、ご了承ください。幸いです。

初めてプレスやコピーの外注を検討している方のために、オーダーの際の注意点やプレスやコピーのオーダーをする上で必要になる基礎知識を掲載しています。

コピーやプレスと一口にいってもお客様によって制作仕様のご要望が細かく異なっていたり、印刷デザインに関する注意事項など以外と細かな約束事があります。それを知らずにオーダーをしてしまうと、思わぬ結果になってしまう可能性もあります。

この小冊子をひととおり読めば、何の不安もなく思い通りの依頼と結果を得ることができるでしょう。

また、オーダーの際の担当者とのやりとりもよりスムーズに進めることができることと思います。

もちろんまったく知識がなく初めてのお客様でも担当者からは丁寧に内容を説明させていただいておりますが、前もって基礎知識を知っておきたい方はぜひご一読ください。

株式会社コムワークス
CD & DVD プレス・コピー「写楽サービス」担当
2007年07月 改訂
2008年12月 改訂
2009年08月 改訂

1 章.プレスとコピーの違いって？

プレスとコピーの違いについてはご存知の方も多かもしれませんが、同じ複製でも両者には大きな違いがありますので、オーダーする前によく確認しておく必要があります。

DVDやCDの複製の依頼をする場合にはまずこの違いをよく理解した上でオーダーする必要があります。ひとことでいうとプレスは販売用途で広く配布する場合、コピーは自家用や少数の配布の場合に適しています。

では具体的にはどのような違いがあるのかみてみましょう。

プレスはマスターディスクのデータからスタンパーとよばれる金型を制作し、それを元にディスクを生産していきます。そのためブランクディスクにデータを書き込むということではなく、データ入りメディアを生産していくという感じです。

一方のコピーは皆さんもよくご存知だと思いますが、パソコンで行うブランクメディア(データが入っていないメディア)に書き込むコピーと同様のものとなります。

プレスの場合はDVD-ROM、CD-ROMという形式となり、汎用性が高くプレイヤーに問題がない限り再生できないなどの不具合がでることはまずありません。そのためどのような再生機器の環境でも問題なく再生することが可能です。

またデータは書き込まれているのではなく物理的に刻まれているものなので、データ面に物理的な損傷などが加えられない限りデータが消えてしまったり、再生できなくなるというようなことはありません。

そのため販売や大量に配布する場合にはプレスの方が安心なのです。

しかも大量に複製する場合(500枚以上くらい)には同じ枚数をコピーするよりもコストが抑えられます。

現在、一般に販売されているCDやDVDはほぼすべてプレスによるものと考えて間違いありません。

再生互換性が高く、複製コストを抑えられるプレスは、複製枚数が多い場合には後述する場合を除き、ほぼ必然の選択となります。

一方コピーの場合にはDVD-R、CD-Rにデータを書き込むことになります。

この場合には、それぞれのメディアの再生に対応していないプレイヤーでは再生が出来なくなります。

現在ではDVD-RやCD-Rの再生に対応していないプレイヤーやドライブはないといっても過言ではありませんが、昔はそうでもなかったのです。

特にDVDが普及し始めた頃のパソコンなどでは、DVDドライブ搭載であってもDVD-ROMの再生に対応しているだけでDVD-Rの再生には対応していないといったものも存在します。この場合はプレスで複製したものは問題なく再生できても、コピーで複製したものは再生することができないのです。

また、コピーの場合にはプレイヤーとの相性が悪いと再生が安定しなかったり、最悪再生ができないということも

あります。ディスク自体にはエラーもなく正常に書き込まれた場合でも、あるプレイヤーでは正常に再生できるが他のあるプレイヤーではうまく再生できないといったような現象が起こりうるのです。とはいってもこのようなケースは極めてまれでそう頻繁に起こることではありませんが・・・。

さらに DVD-R や CD-R のメディアは長時間太陽光にあてているとデータが読めなくなったり、何もしなくても長時間立つとうまくデータが読めなくなることがあります。これは DVD-R や CD-R の性質上避けることができないことです。保存年数は大体平均 20 年～30 年といわれています(保存状況にもよる)ですが、実際にはどれだけ保存できるか確認が取れていないのが実情です。

例えば CD-R に音楽データを入れて楽しんでいる方も多いと思いますが、しばらくすると音飛びが頻繁になったり再生できなくなったりした経験のある方も多いのではないのでしょうか。

プレスで複製された CD-ROM の場合には物理的な傷をつけない限り、そのようなことはおこりません。

それではすべてプレスにすればよいのでは？という疑問が起こることと思います。

しかし、コピーと比較するとプレスにもデメリットがあります。

プレスは少数の場合割高となるのがデメリットです。

通常は一定枚数以上からのオーダー受付となるため 50 枚しか必要ない場合でも最低オーダー可能枚数分(コムワークスでは 500 枚または 1000 枚)の料金が発生するため、結果的に 1 枚単価が結構高くなってしまいます。

もうひとつのデメリットは納期がコピーと比べて長くなるということです。

コピーは数百枚でも 2～3 日で可能ですが、プレスは通常 2～3 週間かかります。

そのため少数の複製や納期がせまっている場合には、コピーを選択されることも多いのです。

2 章. マスターデータの作成について気をつけることは？

コンテンツの配布方法として、Web でというのもすっかり一般的になっていますがメディアで配布というスタイルもまだまだ健在です。複製方法には前章でお伝えしたとおり、プレスとコピーがありますが、オーダーする際には複製の元となるマスターデータを用意する必要があります。

プレス・コピーは提出されたマスターデータをそのまま複製するサービスなので、マスター自体に不具合があったりした場合にはそのまま複製されてしまいます。

そのためマスター制作には注意するポイントがあります。

ちょっと話がずれますが、CD、DVD でどのようなコンテンツが複製されているのかご紹介しておきたいと思います。

現在マスターデータとしてよくあるのは

DVD-VIDEO (DVD プレイヤーで再生可能な形式)

ソフト、データ、販促コンテンツなどの PC ファイル

音楽

といったものがあげられます。

一般にマスターデータは通常ブランクディスクに記録して提出しますが、すべてに共通して注意しなければならないポイントと特定のコンテンツで注意しなければならないポイントがあります。

コンテンツをマスターとしてディスクに書き出す場合には次のことに注意する必要があります。

■データを書き込むブランクディスクは良質のものを使用する

CD であれば For Master という表記のマスター用ディスクが販売されています。DVD であれば For Authoring という表記のマスター用ディスクがあります。一般のメディアでもまず問題はないのですが、万全を期したい場合にはこれらのディスクを使うのがよいと思います。

特に海外のプレスに出す場合などには、マスターに細かなエラーなどが一定以上含まれていると再提出ということになり、納期が延びる原因となります。書き込んだパソコンで再生チェックをして問題ないからといってマスターディスクとして問題ないということにはなりません。パソコンで再生できてもプレス用スタンパー作成には十分でない品質である場合もあるのです。これは実際に工場でスタンパーと呼ばれるプレスのマスターを作成する際に行うチェックで始めて判明することがあります。エラーが一定の基準以上含まれていても PC やプレイヤーの再生では通常どおり再生可能なことが多いです。万一プレスのマスターとして十分な品質でない場合にはプレスは行われず、マスターの再提出ということになります。

■データを書き込む際には、等速で書き込みチェックを行う

現在のドライブ、メディア、書き込みソフトは高速での書き込みが可能になっていますが、高速であればあるほど書き込み時に細かなエラーが混在する可能性が高くなります。あわてずに等速(1倍)で書き込みましょう。

さらに、メディアに書き込む際に書き込みソフトによってはコンペアやベリファイといった機能があるものがあります。

これはブランクディスクに書き込んだデータがコピー元のデータと一致するか正常なデータ形式で書き込まれているかをチェックする機能です。書き込みソフトにこれらの機能がある場合には、これらを活用してください。

これらのチェック機能の設定は書き込みソフトにより異なりますのでご使用の書き込みソフトのマニュアル等を参照してください。

■音楽コンテンツで特に注意したいこと・・・ディスクアットワンス

音楽の場合には書き出し時に必ず「ディスクアットワンス」という形式で書き出す必要があります。この形式だと追記ができなくなりますが十分な再生互換性を得るためには必須となります。

ディスクアットワンスの設定は書き込みソフトで設定できますので、マスターデータ書き出しの際には必ず確認してください。

■DVD-VIDEO コンテンツで注意したいこと

DVD-VIDEO 形式は DVD プレイヤーで再生可能にするためのデータ形式です。

単に映像ファイルを入れただけでは DVD プレイヤーで再生はできません。DVD プレイヤーで見ってもらうためには必ずこの形式でマスターを作成する必要があります。この DVD-VIDEO 形式のファイルを作成することを DVD オーサリング(後述)と呼びます。MPEG 映像ファイルなどとメニュー用画像、ボタン画像などを DVD オーサリングソフトを使用して、まとめます。DVD オーサリングソフトはさまざまなものが発売されており、無料で手に入れることもできます。金額もさまざまですが、機能が豊富になれば一般的に金額も高くなるようです。

マスターデータ用を作成するのであれば無料のオーサリングソフトは避けた方がよいでしょう。また、一般プレイヤーでオーサリングを行ったマスターは互換性が低いため、お勧めしません。互換性・エラー率も高くなるため、せっかくオーサリングを行ってもエラーによって複製できないといったことも考えられます。ですので、安定したオーサリングソフトで編集したマスターを使用したほうがよいでしょう。

データを書き出したら必ず DVD プレイヤーで再生チェックしましょう。可能であればできるだけ多くのパソコンやプレイヤーで再生チェックをするとよいでしょう。

しかし大量に配布する場合には、問題発生の原因となるのでそのようなマスターディスクは再提出となりその分納品が遅れてしまいます。

等速書き出しで質の良いメディアを使用すればまず問題ありませんが、心配な場合にはマスターを 2 枚用意して提出するのもひとつの方法です。

■ボリュームタイトル

PC でドライブにディスクを入れるとその内容(タイトル)が表示されます。このタイトルは書き出し時に設定することができます。この設定を行わない場合には日付などがボリューム名になったりしますので、必要であればコンテンツ内容を表す分かりやすい名前をつけておきましょう。(英数字のみ対応)

3 章.DVD オーサリングとは？

前章で DVD オーサリングについて少しふれましたが、ご存知のように DVD オーサリングとは DVD プレイヤーで再生可能な形式のデータを作成することです。

単純にプレイヤーで再生可能な形式にするだけのこともあります。通常はチャプター分けをしたり、メニューやボタンなども合わせて入れてより見やすいコンテンツにしていくことが多いです。

DVD オーサリングはオーサリングソフトを使って行いますが、無料のものから有料のものまでさまざまです。最近のパソコンでは購入時にすでにオーサリングソフトがインストールされているものがほとんどですので、

まずはオーサリングソフトが PC にインストールされていないか確認しましょう。

それらしきソフトがインストールされていなければ、手に入れてインストールしなければなりません。
無料で手に入れられるソフトもあるようですが、マスターの製作用としては、ちょっと心配なので有料の定評のあるソフトを手に入れておいた方がよいでしょう。

プロの現場で現在もっとも普及しているのは、ダイキン工業から発売されている Scenarist で、機能が豊富でさまざまな要件に対応が可能です。

ただ Scenarist は高価です。安いバージョンでも 50 万円くらいです。
業務で使う方、継続的にオーサリングを行っていく方や凝った構成にしたいならば購入するのもひとつの手ですが、もっと安いものということであれば、1 万円弱のものが多く出回っています。

比較的有名なものとしては以下のようなソフトがあげられます。
どれを選択しても問題ないでしょう。

TMPGEnc Authoring Works 4

<http://tmpgenc.pegasys-inc.com/ja/product/taw4.htm>

DVDMovieWriter7

<http://www.ulead.co.jp/product/dvdmoviewriter/>

ENCORE DVDAdbE Encore CS4

DVD や BD も対応。また、web 向けの SWF ムービーも簡単に作成可能です。

<http://www.adobe.com/jp/products/premiere/encore/>

※ 以上 2009 年 5 月現在

最近では、PC に予めバンドルされているオーサリングソフトもあります。
そのようなソフトの場合、機能があまり豊富でなかったりします。そんな場合には、新たに購入することもあるかもしれません。そんな時に注意したいのが、すでに何らかの DVD オーサリングソフトがインストールされている場合には必ずそれをアンインストールしてから新たなオーサリングソフトをインストールするということです。

オーサリングが終わったらディスクに書き出しますが、その際の注意点などは前記でお伝えしたとおりです。
コピーガードの機能をつけられるオーサリングソフトでは必ずガードをはずして書き出してください。

なおガードをかけたい場合、DLT テープに出力しなければガードをかけることが出来ません。

通常は DLT のデッキなどは持っていないと思います。DLT テープへ書き出せない場合には、このオーサリングに出す必要があります。外注で行う場合、映像、メニュー、ボタンなどのオーサリングに必要な素材を提出してオーサリングを行ってもらい、ガードをかけて DLT テープへ出力してもらおうことになります。(プレスの場合)

なお、プレスやコピーはマスターをそのままの内容で複製するものなのでマスター自体に問題があるとそのまま複製されてしまいます。書き出しが終わりましたら可能な限りいろいろな環境で再生チェックをしてください。

そして必ずひとつとおり、見ることが重要です。

オーサリング時などに気づかなかった不具合に気づくこともあります。プレスのあと納品されたディスクを見てみたら、映像の一部に乱れがあることに気づき、提出したマスターを確認してみたらやはり同様の乱れがあったということもあります。

チェックには制作に関係ない第三者にお願いするのもよいでしょう。

プレス・コピー会社が再生チェックをして保証してくれることはありません。再生環境を多く準備しなければならない上、再生環境は無数にあり、そのすべてで問題ないということは、プレス・コピー会社では保証ができないのです。データ内容に関する責任はすべて依頼する側の責任となるのでマスター提出前に十分チェックを行うことは重要です。

あわせて著作権についての理解も必要です。例えば映像に音楽を入れる場合、その音楽が著作権フリーの音楽であれば問題ありませんが、通常販売されている音楽などを勝手に入れることはできません。後から入れるのではなく撮影時にたまたま流れていた音楽がそのまま収録されたものも同様に著作権上問題がある場合があります。

著作権上の処理が必要な場合には JASRAC という音楽の著作権権利を扱っている団体がありますので、そちらに使用許諾を申し込まなければなりません。音楽著作権に関する問合せや料金体系、詳細等については JASRAC に確認をとった上でマスターを提出してください。

4 章.印刷デザインと提出に関する注意点とは？

印刷及び印刷物についてです。

プレスやコピーをした後配布する場合、メディアのみの裸の状態はまずないでしょう。通常は盤面(またはレーベル以下盤面)に印刷をしたり、ケースにセットしたり、印刷物を同封したりします。

まず、盤面印刷についてですが、いくつか種類があります。印刷の方式によって仕上がりも違ってきますし、それぞれコストも異なります。またプレスとコピーで選択可能な印刷方法が異なります。

ではどんな印刷があるのかみていきましょう。

●インクジェット印刷・・・コピーで選択可能

これは家庭用プリンタで代表的な印刷方式で、盤面プリントのできるプリンタも出回っていますので、みなさんも仕上がり具合についてはご存知でしょう。業務用の高解像度で印刷できる専用機で行いますが、基本的な仕上がり具合は、同様です。水分や摩擦に弱い面があり、長期間使われる場合や頻繁に使われる場合には向いていません。一般的には大量複製のプレスで採用されることはなく、コピーで採用されることがほとんどです。

制限されるデザイン等は特にありませんが、デザインによって仕上がり具合が変わる可能性があります。

例えば、黒や淡い色のベタ塗り、グラデーションなどです。イメージしている仕上がり具合が気になる方は発注する前に仕上がり具合の確認をお勧めします。あくまで確認なのでその通りには仕上がらない可能性はあります。ですが、確認しないよりはいいかと思います。また、小さいフォントサイズでの白抜き文字なども滲んでしまう可能性があります。色味も安定させての印刷が難しいため、追加の場合など同じデータから印刷を行ったとしても色味が異なる場合があります。印刷品質をどの程度こだわるかにもよりますが、販売目的などで印刷品質にこだわりたい場合は、他の印刷方式を検討したほうがよいです。

コストは他の印刷方式と比べると大量では割高、少量では割安となります。

●写真高画質印刷(またはサーマル印刷)・・・コピーで選択可能

熱転写方式の印刷です。コピーでの印刷方式としてはもっとも高画質な印刷方式です。

特定の盤面印刷機にて専用メディアを使用することにより水に強く、インクジェット印刷よりも高品質に仕上がります。使用色数が多かったり、写真を使用したりしているデザインに適しています。また品質にこだわる方にもお勧めです。デメリットとして、専用メディアを使用したりするため、インクジェット印刷より割高となります。

●レーザー印刷・・・CD コピーのみで選択可能

これは銀盤の上に印刷するもので、半透明の感じの仕上がりとなります。

そのため明るい感じに仕上がりますが、Illustrator での色の見え方と違うため、なれないと意図した色に仕上げるのは難しいかもしれません。少量でも低コストで印刷でき、水やこすれにも強いことからインクジェット印刷の代用として選択される場合があります。

●ウォーターシールド・・・コピーのみで選択可能

水に強いインクジェット印刷方式となります。専用メディアを使用することによって水に強い光沢のあるものに仕上げるのが可能です。通常のインクジェット印刷よりも色味を安定して印刷することが出来ます。

ただ、専用メディアを使用するので割高となります。

●シルク印刷・・・プレスで選択可能

比較的単純なデザインやベタ塗りのデザインで採用され、高品質な仕上がりとなりますが、少量の場合には高コストとなるため大量のプレスで選択されます。あえて特殊な効果を狙う場合を除き、グラデーションや画像などの印刷には向いていません。下地を入れて 1～3 色を使うのが一般的で、国内のプレスでは DIC、海外のプレスでは Pantone の色指定が必要となります。通常下地を指定されない場合は銀面となります。

●オフセット印刷・・・プレスで選択可能

一般的な印刷方式です。シルク印刷と同様、プレスの場合に選択されます。シルク印刷と異なり、画像やグラデーションもきれいに印刷でき、オールマイティな印刷方法です。ベタ塗りの質感はシルク印刷より若干劣ります。色数に関係なく印刷することが可能です。

次にジャケット類の印刷についてですが、次のような印刷方法が選択できます。

●オフセット印刷・・・プレス・コピーで選択可能

盤面と同様に大量の場合はこれが選択されます。どんなデザインでも対応可能で、高画質に仕上がります。ただベタ塗りの場合、色ムラが生じる可能性があります。小枚数でも発注は可能です。

●オンデマンド印刷・・・プレス・コピーで選択可能

オフセットより若干品質が劣りますが、ほとんど見た目上の違いはありません。オフセット印刷では高コストとなってしまうような少量の印刷の場合に選択されます。オフセット印刷とレーザー印刷の間あたりの印刷方式となります。レーザー印刷よりは高画質に仕上げることが出来ます。オフセット印刷に出すほどの枚数はないが、高画質に仕上げたい場合にはこちらを選択してください。デメリットとしてレーザー印刷よりは割高となります。

●レーザー印刷・・・コピーで選択可能

コピーの場合のジャケット印刷で使われています。特に指定ない場合はレーザーでの印刷となります。どんなデザインでも印刷は可能ですが、オフセットと違い注意が必要となります。盤面印刷のインクジェットより繊細なため、黒塗りや淡い色を使用するのベタ塗り、淡い色でのグラデーションなどが苦手です。小さいフォントでの印刷も苦手としています。また、印刷時期によって同じデザインのもを印刷したとしても同じように印刷できるとは限りません。デザインをされる際に気をつけて作成された方がよいでしょう。デザインによっては家庭用のインクジェットプリンタで出力した方がキレイに出る場合もあります。品質を気にする方は他の印刷方式の検討もお勧めします。次に盤面やジャケットの印刷デザインに関して注意しておくべきポイントをお伝えしようと思います。デザインを作成する場合、印刷方法によっていくつか注意しておかなければならない点があります。

まず、インクジェット印刷を予定している場合には次のことに気をつけましょう。

原則として広範囲のベタ塗りのデザインは避けたほうがよいです。

特に黒のベタ塗りは、仕上がりが悪くなる場合があります。スジが目立ったりしてあまりきれいに仕上がりにません。これは、インクジェット印刷の場合にはどんなよい印刷機を使っても避けることができません。それを踏まえた上でどうしても広範囲のベタ塗りのデザインにしたい場合には、その他の印刷方式を検討することをお勧めします。

もう一点は、小さいフォントの中抜き文字の使用です。文字の輪郭を濃い色にして中を白にするという文字装飾はよく使われますが、これを小さいフォントサイズでしてしまうとインクジェット印刷の場合きれいに仕上がりにません。

周りの輪郭の色が中の白い部分ににじんでしまうことがよくあり、文字がよく判別できなくなってしまうことがあります。

シルク印刷を予定している場合に注意することとしては、グラデーションや画像は使用しないということです。原則としてベタ塗りやシンプルな文字列の単純なデザインになるようにします。特殊な効果を狙ってあえてグラデーションや画像のデザインでシルク印刷をすることもありますが、そうでないならば避けた方がよいでしょう。

レーザーの電子印刷については他の印刷と異なり、仕上がりが独特なので、特徴をよく理解した上でデザインする必要があります。Illustrator 上で見た色よりも大分明るく・薄い感じに仕上がります。意図したイメージとだいぶ異なる印象となる場合がありますので、レーザー印刷とはどんな感じに仕上がるのかサンプルなどで確認しておいた方がよいでしょう。

デザイン制作上制限が少ないのがオフセット印刷です。印刷方式のことは気にせず自由にデザインしたい場合には、オフセット印刷を選んでおけば問題ありません。ただ、制作仕様・予算等でオフセット印刷を選べない時のために上記のような注意点が重要です。

デザイン制作に関わる注意点として代表的なものをまとめると以下のようなことです。

・デザイン提出用のファイルの有無の確認

盤面やジャケットのデザインを制作する場合にはテンプレートのファイルが準備されているかどうか確認しましょう。通常、プレス・コピーサービスを提供している会社では盤面やジャケットのデザイン提出用のテンプレートファイルを準備していることがほとんどです。

テンプレートが準備されている場合には、その中にデザインを入れ込みます。また、デザインを作成する際、ソフトの指定・ソフトのバージョン指定がされている場合もありますので、制作前に確認しておきましょう。

・文字はアウトライン化する

これをしないとデザインデータを開いた PC に該当のフォントが無い場合、代用のフォントが適用されてしまい本来のデザインで指定したフォントと異なってしまいます。

そのため、文字はすべてアウトライン化し、PC にインストールされているフォントに依存しないようデータを作成します。デザインデータを入稿することに当たってこれは必須となっています。

・画像の埋め込み、リンクを確認する

画像を使用している場合そのデータを埋め込みまたはリンクにしているかと思えます。データ量が軽いものでしたら埋め込みでもかまいませんが、重いようでしたらリンクをおすすめいたします。デザインデータを開いた際に埋め込み失敗やリンク切れを確認しましょう。ご入稿の際にはデザインデータファイルとリンクファイルに分けた方が受け取る方もわかりやすいでしょう。

・オーバープリントのチェックははずす

ここがチェックされていると色が重なっている部分について Illustrator の画面上の色と実際に印刷される色が異なってしまいます。ほとんどの場合、外れていることが多いのであまり気にする必要はありません。

※Illustrator の属性パレットにてご確認できます。

・アタリケイ(印刷可能範囲の枠線)は提出時に削除する

アタリケイが実線で残っていると印刷されてしまいます。提出前に削除してください。

その他、印刷に関する注意点はプレス・コピーサービス会社により異なります。一般的には印刷デザイン作成に関する注意事項等のドキュメントが用意されていますのでそれらを参照するようにしてください。

デザインデータが完成したら提出となるわけですが、提出の際には出力サンプル(デザインデータを印刷したもの)を同時に求められる場合がほとんどです。

これは、何らかの理由で色が入れ替わってそのまま印刷されるのを防止するための確認用です。

後は校正が必要かどうかですが、校正をする場合には、一般的に納期がその分長くなり、通常別料金が発生します。

5 章. マスターデータ、デザインデータ入稿のポイント(まとめ)

今まで説明してきましたマスターや印刷データの入稿に関する重要ポイントをまとめました。

まずマスターについてですが、これはすでにお伝えしているようにマスター用ブランクメディアに等速で書き込むようにしてください。高速で書き込むと問題なく書き込めているようでもプレス用スタンパーの制作には十分でないクオリティの場合があります。マスター用ディスクは大手家電店で販売されています。

これによりプレスの場合はスタンパー作成でエラーになるのを防ぐことができ、コピーの場合もエラーの少ないマスターにより、再生互換性がよくなります。

マスターの内容については入稿前に十分確認することが必要です。

プログラム、映像、各種コンテンツなどどんな内容にしても正常に見られるか、正常に動作しているかということを確認してください。

マスターをそのままコピー作成をするので当然のことながら不備点はそのまま複製されてしまいます。何千枚もプレスしたあとに不備点を発見しても手遅れです。

再プレスで余計な時間とコストをかけないためにも内容検証は時間をとって十分行うべきです。

また、マスターデータについてはメディアに書き込んで提出するのが原則です。

FTPなどでネット経由にてデータを送ることも不可能ではありませんが、おそらくほとんどのプレス・コピーサービス提供会社で拒否されます。

その理由はプレス・コピー後に何らかの不具合が発見された場合の責任の所在が分かりにくくなるからです。メディアで提出されていればそのメディアを保管しておき、何かトラブルがあった場合そのマスターを確認すれば、マスター自体に問題があったのかプレスの過程で問題があったのかははっきりします。

印刷データについてはメール添付やFTPでやりとりすることも結構あるようです。これも本来メディアで提出した方が間違いないのですが、納期の問題等によりネット上でやりとりすることもあります。

いずれにしてもメディアで送るには、日数がかかります。納期がある場合には何日までに入稿すれば納期に間に合うかオーダー前に依頼先へよく確認し、その日までに確実にデータを先方へ渡せるよう手配しましょう。

国内プレスではあまり問題ありませんが、海外プレスでは原産国の休祝日、天候や配送便の欠航・通関のチェックなどにより、配送が遅れる場合もまれにあります。なお、ホームページなどで明記されている納期は目安となります。工場の稼働状況等により前後する場合がありますので、確実な納期がある場合には前もって確認すると同時にオーダー時にも納期厳守の旨を伝えるようにしてください。どんなアクシデントが起こるか分かりません。厳密な納期がある場合には、できるだけ余裕をもって入稿しておくことが重要です。

6 章.その他注意点と予備知識

・データの修正

マスターデータや印刷データを入稿後にいろいろな理由で訂正したいということが場合があります。例えば入稿後、マスターに何らかの不具合が見つかり、再提出したい場合などです。一般的には一度入稿したデータを差換えることは出来ないと考えた方がよいでしょう。もし差換える場合には別料金が発生する場合があります。そうならないように入稿前に入念にチェックすることが必要ですが、特にソフトウェアや手の込んだコンテンツの場合には制作に関わった担当よりもあまりその内容を知らない第三者にチェックしてもらったほうがよいと思います。

・Made In ○○○ の表記

プレスは最近、海外工場で行われることが多くなっています。その理由として国内工場より価格単価が圧倒的に安価であることがあげられます。しかも使用しているプレス機械は国内工場で使われているものと同じという工場もあり、そのような工場では品質的に同等のプレスをすることができます。セキュリティ的にも ISO などを取得して厳重な品質・コンテンツ管理の下で稼働している工場もあり、間違いのない工場を選択すれば海外プレスはかなり賢い選択となるはずです。

現在使われる海外工場は台湾と韓国がほとんどですが、その際に「Made In Taiwan」などと生産国表記を

デザインへ入れることを要求されます。特にアダルトコンテンツや販売用途のコンテンツのプレスの場合には必ず入れるよう指示されると思います。

通関ではすべてをチェックしているわけではありませんが、ランダムに内容チェックを行っています。生産国表記が無い場合には、差し戻しなどの措置となり、納期の遅れや再プレス費用が発生することがあります。

ただ「Made In Taiwan」などの表記をどうしてもしたくないという場合もあるかと思います。その場合には自己責任で表記を入れないという選択枝もありえます。このあたりは依頼するプレスサービス会社により対応が異なりますので確認が必要です。必ず入れないと受け付けないというところもあります。

大量の枚数のプレスの場合には入れておいたほうが無難です。量が多ければチェックにもかかりやすいでしょうし、万一差し戻しや破棄となった場合の金銭的なリスクも大きくなります。

通関のチェックについては東京よりも大阪の方があまいという面もあるので、少量のプレスでどうしても表記を入れたくない場合には、大阪経由で入れてくれるよう頼むという手段もあります。ただ、プレスサービス会社によっては対応しない場合があったり、納期が伸びる、配送料金が増えるなどのデメリットもあります。

特別事情がなければ表記を入れておくのが無難ですが、目立たせたくないという場合にはデザインを工夫して、ごく小さいフォントサイズにすればよいでしょう。まったく読めないほどの小さいフォントサイズではダメですが、ギリギリ読める程度の大きさで入れておいても通関上は問題ありません。デザインを工夫して文字と一体化するような感じにしておけばほとんど目立たなくできるでしょう。

・品質

特に海外プレスに関する品質については心配な方も多いのではないのでしょうか。プレス自体はそれほど高度な技術を要するものではなくプレス機械の品質に依存するものです。特別な技術を持った「人」が必要なわけではないので、それなりのプレス機械を使っていれば特に問題はありません。海外工場でも日本メーカーのプレス機械を使っているところもあり、そのような場合には国内でも海外でも同じ品質といえるでしょう。ただ品質についてはプレス機械についてよりも、その周辺の事情が大きく関係していることの方が多と感じます。例えばクリーンルームはほとんどの工場で完備されていますが、それが正しく運用されているかは別問題です。

そもっとも影響があると思われるのは品質チェックの工程です。通常、プレス後に機械的なチェックが行われますが、このチェックの基準値は工場側で決めています。例えば仮に10がDVD規格にのつった正常な基準値だとします。その場合9以下のものについては不良として破棄するのが普通と思われるのですが、実際には必ずしもそうではありません。

なぜなら 9 だからといって再生ができないということではないからです。そのため本来 10 の基準でチェックをするべきところを 9 や 8 など低い基準値でも合格としてしまいそのまま出荷・納品という工場もあるのです。逆に工場によっては 11 以上の基準でチェックを行っているところもあり、結局はそれぞれの工場の判断しだいといった面があります。

コピーについては、コピー後のチェックをどこでも行っており、どちらかという問題は使用するメディアになります。使用されるメディアのほとんどは日本製か台湾製のどちらかとなります。日本の企業から販売されているメディアでも生産されたのは台湾というものも多いため、日本の企業から発売されているから日本製とはいえません。

品質については、一般的に日本製の方がよいといわれていますが、日本の大手販売企業が自社のブランド名で台湾製のメディアを販売しているくらいですから台湾製のメディアでも十分な品質の裏づけがあるでしょう。

これも工場の設備及びどの程度の品質のものまで出荷するか基準により、品質に差が出てきます。日本の大手企業が生産委託しているような工場であれば問題ないと判断して間違いはないでしょう。

どうしても気になる場合には日本製メディアでコピーしてくれるよう依頼するしかありませんが、その場合には台湾製よりも割高となります。

7 章.オーダーのながれ

最後にコムワークスへオーダーすることをご検討している方のために弊社のサービスの特長と詳細なオーダーの手順をお伝えしておきます。

■コムワークスのプレス・コピーサービスの特徴

1.短納期+安心の納期補償(コピーサービスのみ)

プレスでは特急コースをご用意してございます。通常海外プレスですと 17 日程納期を頂いておりますが、特急プレスコースですと 10~12 営業日前後で対応可能でございます。特にお急ぎの場合には担当が直接台湾へ行き、プレス工場に出向いて引き取ってくるハンドキャリア手配で最短 3 日での納品が可能です。通常のコピーではマスターを入稿いただいてから(納品先にもよりますが)4~5 日程度で納品可能です。大量コピーでも短期間にて対応可能ですので、ご相談ください。

コピーでは、納期補償を行っております。運送会社関係の遅延でも補償します。

予定納期が翌日以降となった場合は全額返金いたします。別途補償料金は発生いたしません。

無償サービスとなっております、通常のコピーサービスでは自動的に補償を致します。

免責事項がございまして、マスターが予定日に弊社着で無かった場合やお客様と連絡が取れないために作業を進

めることが出来なかつたりなどは免責となりますのでお気をつけください。

補償サービスの詳細は以下からご覧いただけます。

http://www.comworks.co.jp/modules/press02/rewrite/tc_30.html

2.高品質

プレスは ISO9001 取得の台湾大手工場で行われます。この工場は日本の大手メディア販売企業からの OEM 生産も受けており、品質には定評のある工場です。工場に導入されているプレス機械の大部分は日本製のため、国内プレスと同等の品質です。さらに出入り管理ゲートや 24 時間監視警備体制、権限者のみのコンテンツアクセスなどセキュリティ面も十分なクオリティを保っています。

コピーは日本国内で行っています。業務用の大規模複製機械を使い、お客様のマスターデータを正確に複製していきます。機械的なチェック(ベリファイ※やコンペア※)ほか目視によるチェックも行っており安心です。

※ ベリファイ(検証)…コピーが完了しましたメディアから実際に読込ができるか検証を行う機能。

※ コンペア(比較)…コピーが完了しましたメディアとマスターデータと比較検証を行う機能。

3.低価格

プレスは台湾の優良工場と直接取引をしており、間に代理店などを経由していませんので低コストでサービスの提供が可能となっています。コピーは、少数の複製でも出来るだけ低価格で提供するよう努めています。大量の場合には一日数万枚の複製も可能な大規模工場ですら低コストでサービス提供をしています。

また、パッケージコースは盤面印刷から包装まで納品してからすぐに配布・販売が可能となっているコースです。

ご利用いただいたお客様に「安い」とのお声を頂いている大変お得なコースとなっております。

4.迅速な対応

お急ぎのお客様にとって対応の遅さは致命的です。見積依頼は即日提出、納期は即時回答、その他お客様からのご依頼内容に対しては出来るだけ迅速に対応することを担当者に徹底しております。

※営業所は土日お休みを頂いております。土日に頂きましたお見積り依頼やご質問などは翌営業日のご回答となりますので予めご了承ください。

5.親切な対応

プレス・コピーサービスは何度もオーダーの経験のある方ばかりではありません。初めての方にも分かりやすく説明し、お客様が正確に希望の制作仕様を伝えられるよう気を配って対応させていただいております。初めての方にはプレスとコピーの違いからご説明いたしますので、お気軽にお申し出ください。

6 コピーサービスでコピーガード可能

3 章でプレスにてコピーガードを付ける場合 DLT 出力したものではないとガードを付けることが難しいとご説明しました。ですが弊社では、メディア支給でのコピーガードを付けることが可能です。何も設定することなく、そのままマスターメディアをご支給ください。ご支給いただきましたマスターにガードを付けてコピーし、納品いたします。コピー

サービスの対応が可能のため、小ロットや短納期でも対応可能でございます。お気軽にご相談ください。

※ データサイズは 3.8GB まででお願いいたします。それ以上の場合は再エンコードが必要となり、

別途料金が発生します。また、ファイルは video 形式、1 層のみの対応となります。

詳細は下記のページをご覧ください。

http://www.comworks.co.jp/modules/press02/rewrite/tc_32.html

■オーダーのながれ

<http://www.comworks.co.jp/modules/press02/> (サービスの詳細 Web ページ)

1.お客様から制作仕様のヒアリング

プレス・コピーの種別、枚数、ジャケット、ケースなど制作仕様等について詳しくお聞きします。

はじめの方には各項目についての説明を行い間違いのないよう制作仕様を確定します。

この時点でご不明な点などございましたら、ご遠慮なくご質問ください。はじめて見積依頼またはご依頼いただく場合には、ご連絡の前に以下の項目について予めご検討・ご確認をお願いいたします。

■プレスで複製するかコピーで複製するか

500 枚以上の場合、再生互換性を重視する場合にはプレスがオススメです。少量の場合または、納期が差し迫っている場合にはコピーをご選択ください。

■メディア種別、複製枚数

DVD-5 (片面 1 層)、DVD-9 (片面 2 層)、CD の種別を決めてください。

コピーは 1 枚～承ります (ただし 30 枚以下は一律料金となります)。半端な枚数でも承ります。

プレスは 1 枚～オーダー可能ですが実際には 1,000 枚以下は一律料金となりますので、数が少ないほど単価が割高となります。半端な枚数でも承りますが 1,000 枚以上がお勧めです。

■盤面印刷の有無 (有りの場合、印刷内容にイラストや画像が含まれているかどうか)

盤面印刷はプレス・コピーの種別により、選択できる種類が異なります。

プレスの場合にはシルク印刷 (3 色まで下地を含む)、フルカラーオフセット印刷から選択可能です。シルク印刷の場合はパントンカラーの指定が必要となりますので、必ずご指定ください。コピーの場合にはインクジェット、サーマル印刷、ウォーターシールド印刷の中から選択ください。それぞれの特徴は 5 章をご参照ください。

※ 弊社では、インクジェットの場合色数ではなく、容量で判別しております。白黒でも半分以上文字やロゴがある場合、フルカラー印刷対応となります。

※ 海外プレス (通常) の場合、盤面に原産国表示を入れていただくよう推奨しております。入れたくない場合は国内プレスをご選択ください。

■ジャケット類の有無

ジャケットや同封するブックレット等の有無、ページ数・色数を確認してください。

お客様がご支給する完成品印刷物をご支給いただきまして、セットすることも可能でございます。

■ケースの有無(有りの場合は、ケースの種別・色)

ケースはトールケース(DVD ケースの標準)、スリムトールケース、P ケース(CD ケースの標準)、スリムケース、

ejector ケース、マキシケース、不織布ケース、厚紙ケース、簡易紙ケースなど多彩な種類から選ぶことができます。

この他のケースのご要望に応じることも可能ですので、ご希望のケースがない場合にはご相談ください。

※厚紙ケースはプレスのみ、ejector ケースはコピーのみの対応となります。

■包装の有無

キャラメル包装、シュリンク包装(プレスのみ)、OPP 袋封入などが可能です。

■サービスの検討

上記を検討しましたら弊社で準備しているサービスをご検討ください。バルクコース、パッケージコースなどは通常料金よりかなりお得なコースとなっております。特に複製からケース・包装までひととおりご希望の場合には、パッケージコースが大変お得です。

※上記確認終わりましたらぜひお見積のご依頼ください。

プレス・コピー専用フリーダイヤル 0120-77-5609 担当:古川または宮平(不在時は加藤)

見積依頼フォームから金額を確認することも可能です。弊社 Web ページより、見積依頼フォームを開いて、必要事項を入力の上送信してください。

プレス・コピーサービス見積依頼フォーム↓

http://www.comworks.co.jp/modules/formmail/index.php?id_form=10

2.仕様にもとづき、お見積書を提出

お客様からのヒアリング内容または見積依頼フォームからの情報にもとづき仕様を確定し、料金を提示します。

お見積書は電子ファイルやFAXでお送りしておりますが、原本が必要な場合には郵送にてお送りします。

請求書原本が必要な場合にはお申し出をお願いいたします。

3.データ等の入稿・提出

発注シート(※)・入稿チェックシート(※)・盤面やジャケット(印刷ありの場合)のデザインテンプレートファイルを

ダウンロードコーナーからダウンロードしてください。コピーの場合、発注シートは.xls ファイルとなっております。

そのまま必要事項をご記入の上、メールにて送信ください。(パッケージコースの場合は紙媒体にてご入稿下さい)

http://www.comworks.co.jp/modules/press02/rewrite/tc_12.html (ダウンロード Web ページ)

印刷物がある場合にはデザインテンプレートに直接盤面やジャケットのデザインを入れ込んでください。
デザインは Illustrato8 または 9 にて開けるように作成をお願いいたします。弊社のテンプレートを使用されることを推奨いたします。パッケージコースの場合は必須となります。ファイル名は英数字にて分かりやすくお願いいたします。
通常コースとパッケージコースでテンプレートが違いますので、ご注意ください。

■オーダーする場合に必要なものの詳細は以下のとおりです。

○マスターデータ

複製の元となるマスターデータです。DVD-R や CD-R にてご提出ください。このディスクを元にプレスやコピーを行いますので、データ内容についてはお客様側でよくご確認・検証してください。

特にプレスの場合には、マスター作成用のブランクディスクを使い、低速書き込みでマスターディスクを作成することをお勧めします。マスター用ブランクディスクは太陽誘電などから発売されており大手の電化製品店でお求めいただけます。メール添付やダウンロードではご入稿できませんので必ずメディア現物をお送りください。

また、ご入稿頂くマスターには必ず盤面に御社・お名前かタイトル名をマジック等でご記入をお願いいたします。

海外の場合は合わせて刻印番号のご記入をお願いいたします。※工場での事故防止のため

CD の場合は CD-R (できればマスター制作用 CD-R)、DVD (片面一層) の場合は DVD-R、DVD (片面2層) の場合には DVD-R DL、DVD+R DLT にてご提出ください。なお DVD プレスでコピーガードが必要な場合には、DLT でご提出ください。

※ 海外特急コース、国内プレスは CSS キー設定済みの DLT にてご入稿ください。APS の場合はお客様自身でマクロビジョンと契約が必要となります。

○デザインデータ

各種印刷をご希望のお客様は弊社でデザインを入れ込むためのテンプレートをご用意しておりますのでダウンロードし、デザインデータを入れ込んでメール添付かメディアに記録してお送りください。

簡単な文字、ロゴ等の配置のデザインであれば、弊社にて代理制作を承っております(別料金です。料金は内容により異なりますので別途お見積となります。該当の Web ページをご参照ください)

○ オーダーシート(または発注シート)

お客様情報や制作仕様を記載していただく申し込み用紙となります。こちらもダウンロードできますので、ダウンロードし、プリントアウトして必要事項をご記入の上 FAX またはマスターと一緒に送ってください。

コピーの場合は、xls ファイルとなっておりますので、ご記入の上、メール添付にて送ってください。また、ご不明な点はこのページ下部の記載方法をご覧くださいか弊社担当まで

電話(0120-77-5609)またはメール(order@comworks.co.jp)等でご連絡ください。

※プレス・コピーの種別や DVD・CD の種別でシートが異なりますのでご注意ください。

○入稿チェックシート

主に印刷デザインデータに関するチェックシートとなります。あわせて著作権に関する確認事項も記載しておりますので、ご一読の上サインし、FAX またはマスターと一緒に送ってください。

※弊社では著作権侵害にかかる内容の複製はお受けいたしかねます。サインをされたものはデザインの注意事項・著作権に同意したものとしております。不備はあったものに関しまして保証しかねますのでご注意ください。

○出力サンプル

デザインを出力(pdf、jpeg、プリントアウト)したものをマスターと一緒に送ってください。海外プレスの場合、刻印番号を出力見本にご記入をお願いいたします。出力する用紙は普通紙で結構でございます。上質紙に出力された場合、同じような印刷とならない場合がございます。(インクジェット印刷の場合)

※仕上がりこだわの方はプリントアウトした出力見本を送ってください。pdf等のモニター上の出力ですと、ご希望のイメージと違う可能性がございます。

オーダーシートに必要事項を記入し、入稿チェックシートの注意事項や同意事項をご確認いただき、必要箇所へ署名・捺印の上、弊社までマスターデータ(印刷物がある場合にはデザインデータも)とともに以下まで送ってください。オフィスにご来社いただきご提出することも可能です。ご来社頂ける場合には事前にご連絡くださいますようお願いいたします。

■マスターデータ類の送り先

〒330-0052

埼玉県さいたま市浦和区本太 2-9-24 神野ビル 2F

株式会社コムワークス プレス・コピーサービス係

048-883-9629

※デザインデータ類はメール添付でお送りいただくことも可能です。(8MB 以内)
担当のメールアドレスに直接送信ください。また件名を入れていただきますようお願いいたします。
(お名前・ご連絡先を明記の上お送りください)
重たい場合には圧縮してお送りいただきますようお願いいたします。

プレス・コピーサービスの料金は、原則として全額前金にてお願いしております。マスター等入稿データ到着までに料金を下記口座へお振込みください。

マスター等の提出のためにオフィスにご来社いただいた場合にはその場でお支払いいただくことも可能です。

※ 現金のみのお取り扱いとなります。

銀行振込:

▼三菱東京UFJ銀行 浦和支店 普通0602615
口座名義 カ)コムワークス

郵便振替:

▼郵便振替 記号番号 10390-48988711
口座名義 カ)コムワークス
※恐れ入りますがお振込み手数料はお客様ご負担にてお願いいたします。

DVD マスターの制作方法が分からない方、また時間がないので依頼したい方には「DVD オーサリングサービス」をご用意しております。詳細は該当 Web ページをご参照ください。

DVD オーサリング詳細ページ http://www.comworks.co.jp/modules/press02/rewrite/tc_11.html

※各種必要データ類をお送りいただき、ご入金いただいた時点で工場手配とさせていただきます。またこの時点から納期がカウントされます。お客様がマスターを発送された日からのカウントとはなりませんのでご注意ください。
ご入稿以降の返金、マスターの差換え等はできませんのでご注意ください。差し替えの場合、差し替え手数料として 5,000 円(税込)頂きますのでご注意ください。(差し替えは弊社に到着日中)
その場合、盤面に差し替えマスターとわかりますよう「修正または差し替え版 日付」のご記入をお願いいたします。

4.マスターデータやデザインデータのチェック

このチェックはデータ内容を弊社で保証するものではありませんが、明らかな不具合や間違いがあればお客様へお伝えし、再提出していただくこともございます。

5. 工場へ手配

すべてのデータ類、書類がそろい、代金のお振込みの確認ができた時点で、工場へ手配を行います。

6. 発送

納品日に指定した場所へお届けします。原則として午前中着にて手配しておりますが、当日の交通量や配送業者の都合により、午後に可能性もありますので予めご了承ください。前日に間違いがないよう弊社内で配送手配についてチェックを行います。

7. 納品

梱包には十分注意しておりますが、納品物に破損等がないかご確認ください。万一破損等不良があった場合には、該当物をお取替えいたしますのでお手数ですがご連絡ください。また不良等のご連絡は納品後 1 週間以内にお願いたします。それ以降のお申し出につきましては対応しかねますので予めご了承ください。

いかがでしたでしょうか。ひととおりプレス・コピーサービスについて解説してきましたが、このほか疑問などありましたら、個別に以下のアドレスまたは電話番号へご連絡ください。

電話：0120-77-5609 担当：古川（不在時宮平）まで

詳細はコムワークスのプレス・コピーページであわせてご確認ください。

CD/DVDプレス&コピーサービス↓

<http://www.comworks.co.jp/modules/press02/>

発行者：株式会社コムワークス

〒330-0052 埼玉県さいたま市浦和区本太 2-9-24 神野ビル 2F

電話：048-883-9629 FAX：048-749-1631

プレス・コピー専用フリーダイヤル 0120-77-5609

<http://www.comworks.co.jp>